

2010 年度入学試験 「出題傾向と対策」

算数 (特待選抜入試用)

出題の意図やねらい (全体的な傾向など)

小学校で学んだ内容をしっかりと理解しているかを確認します。計算問題は、ただルールを理解しているだけではなく、複雑な問題を最後まで粘り強く解いていくことができるか、工夫して計算をすることができるかなどを問います。

また、数段階のステップを踏みながら答えを導き出したり、読解力を試されたりするような問題も出題します。中学、高校の数学では、ただ計算ができるだけでは、数学ができるとは言えません。

思考力・分析力も必要になってきますので、それにつながられるような力を見る問題も出題します。

大問題ごとの紹介 (単元・レベル・小問数など)

【大問1 計算問題】

一見複雑そうに見える問題もありますが、工夫したり、粘り強く解いていけば、解ける問題です。

4～5題を出題予定です。

【大問2 一行問題】

短い文章ですが、数段階のステップを踏みながら解いていくような問題です。

レベルは標準、4～5題を出題する予定です。

【大問3以降】

読解力を試す問題を出題します。

問題数は3～4題。レベルは標準から発展です。

文章の中から条件を正しく読み取り、要求されている答えを導き出すことができるかを問います。

また、図形の問題も必ず1題は出題されます。自ら必要な補助線を引くことができるか、空間や立体の認識ができるかなどを問います。

ポイントとなる問題など

単なる知識を問う問題ではなく、その知識を利用して応用問題を解くことができるかを問います。また、問題によっては答えだけではなく、途中式や考え方を書く問題も出題します。

受験生へのメッセージ

基本を理解していることはもちろんですが、それ以上に自分で考える力があるかどうかを問います。また、記述式もありますので、途中式をしっかりと書くことができるようになる必要があります。答えが合ってさえいればよい、ということでは数学の力がつきません。日頃から、途中式を書く練習をしてください。

また、丁寧に書き出したり、図を実際に書く、などの練習もしましょう。